

『あなたの名前を呼ばれる方』(要旨)

聖書箇所：ルカ 19:1-10

【1】「潔白」という名の取税人ザアカイ

ザアカイという名には「純粹、潔白」という意味があります。しかし今朝登場するザアカイは、そのように願った親の期待とは正反対の生き方をしていました。

当時ローマ帝国がパレスチナを支配していました。ローマ政府は税金の取り立てを現地の住民に任せ、その役割を担った取税人たちは必要以上の取り立てを日常的にしていました。そのため民衆は取税人を強奪者と呼び、嫌悪しました。当然「取税人のかしらで、金持ち」(19:2)であったザアカイも住民から恨まれていたことでしょう。

【2】友なきザアカイ、イエスに興味を持って

きてエルサレムに向かう主イエスの一行がエリコの町を通過した時のことです。エリコの町のザアカイは「イエスがどんな方かを見よう」(2)と近づこうとしました。しかし「背が低かったので、群衆のために見るができなかった」(3)のです。彼は職業柄町でよく知られていた人物でした。しかし誰も彼がイエスに近づくことができるように協力しませんでした。ザアカイは、ローマという権力を笠に着て人々を脅し従わせてきました。そのためザアカイが助けを必要とした時に自発的に動いてくれる人はいなかったのでしょうか。ザアカイには友と呼べる仲間がいなかったのです。

【3】なんとか一目見ようと

ザアカイは、周囲の協力を得られないととっさに判断しました。それで彼は「先の方に走って行き…いちじく桑の木に登った」(4)のです。彼はイエスが通る場所を瞬時に予想し、大の大人であるにも関わらず走って行ったようです！目を大きく見開き木の上で待ち構えるザアカイ。彼の熱意と息遣いが伝わってくるようです。彼は木の上からイエスを見下ろしました。

【4】イエスの関心

ところが、彼の予想に反した出来事が

起こりました。「イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。『ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。』」(5)

ザアカイはイエスを見ようとしていました。しかしイエスが最初に彼を見つけ、その名を呼んだのでした。イエスは木の上のザアカイに気付いたから声をかけたのではありません。ザアカイを捜していたのです。

「家に泊まる」とは家の主人に自分の持ち物も命も預けることを意味しました。イエスはザアカイの「客となる」となることで、ザアカイの友であることを周囲に示しました。人々は「あの人は罪人のところに行って客となった」(7)と文句を言いました。

【5】イエスを家に迎えた結果

イエスを家に迎えたザアカイは自分が犯した罪に気がきます。そして過ちを償いたいと強く思います。彼が約束した返済額は、法の規定をはるかに超えていました。自分を喜ばすために生きてきたザアカイが、イエスに喜ばれる生き方を願うようになったのです。人生の中心が自分ではなく神になったのです。何が彼をここまで変えたのでしょうか。それはイエスのザアカイに対する関心でした。正しくない歩みをしてきた彼への愛でした。

エルサレムに上る途中、弟子たちの「だれが救われることができるでしょう」(18:26)という問いに、イエスは「人にはできないことが、神にはできるのです。」(18:26-27)と答えておられました。

▷あなたの名前を呼んでおられるイエスを、今日、あなたの家—こころ—にお迎えしませんか？

